

# メダカの育て方

発行: ★SOMEDAY めだか★

## 1) 容器

コップから水槽まで、様々な容器があります。自分のスタイルや置き場所、メダカの数に応じた容器を選びましょう。

## 2) 水

水が一番大切です。お店で売っている「カルキ抜き」を使うと、すぐにメダカを新しい水に入れることができます。一日汲み置きした水道水でも大丈夫です。

## 3) 水換え

小さい容器では水が傷みやすいため、2リットル以下の小さい容器で飼育する場合はエサを与えた翌日、水槽などの大きな容器だと、一ヶ月～二ヶ月に1回が目安です。

ただし、エサをたくさん与えれば与えるほど水が傷みやすいので、餌の量は少なめにしたほうがいいです。

それ以外に、水の臭いが臭くなった時も、速やかに水換えをしてください。

## 4) エサ

餌が古くなると餌の風味が落ちてメダカが食べなくなり、餌が酸化して腐った状態になるので、半年以内に使い切る量の餌がオススメです。

与える目安としては、メダカ5匹に対して耳かき1杯です。

10リットル以上の容器で飼う場合は1日3回までを目安に与えてください。

小さい容器で飼う場合には2～3日に1回与えてください。

しばらく家を空けるからといって沢山の量を与えることは、絶対にしないでください。水が急激に傷んで、メダカが死んでしまいます。むしろ、メダカは1ヶ月餌を食べなくても生きていますので、家を空ける場合には餌を絶ってください。

**特に小さい容器で飼う場合は、餌が多過ぎると水が悪くなり、メダカが病気で死んでしまいます。**

**初めての方が一番失敗する原因は、餌の与えすぎで水が悪くなることです。**

## 5) 水の温度

夏場は水温が35度を超えると危険なので、そうならない場所に水槽を設置しましょう。小さい容器よりも大きい容器の方が、水の温度が高くなりづらいです。

状態良く飼育していれば、冬場に水温が0度くらいまで下がっても、めだかは死にません。冬眠します。

冬場は、家の外や玄関などの寒い場所で飼育している場合、メダカはじっとして動きません。そういう場合には、餌やりは禁止です。メダカが食べないので餌がそのまま残り、水が傷んで可愛いメダカが死んでしまいます。

## 6) メダカの調子が悪い時

0.7%の塩水で2日ほど様子を見ましょう。0.7%の食塩水の作り方は、水1リットルに対し粗塩を7グラムです。水が10リットルなら粗塩は70グラムです。

治療中は絶対に餌を与えないようにしましょう。

何度も書きますが、餌の与え過ぎには一番気をつけて、可愛いメダカを大切に育ててください(ˆoˆ)/

一番楽しい餌やりをもっと楽しみたい方は、30cm以上の水槽でブクブク(エアと濾過)を入れて飼育してください。

ブログでも、飼育のコツなどを書いています。「SOMEDAY めだか」で検索してみてください♪

# メダカのかんたんな増やし方

発行: ★SOMEDAY めだか★

## 1) 産卵条件

日照時間が13時間以上で朝の水温が20度近くになる季節に入ると、メダカは交尾してメスが卵を産みます。下の写真が、卵を抱えているメスです。



メスは卵をつけたまま泳ぎ、卵を産み付けるモノを探します。

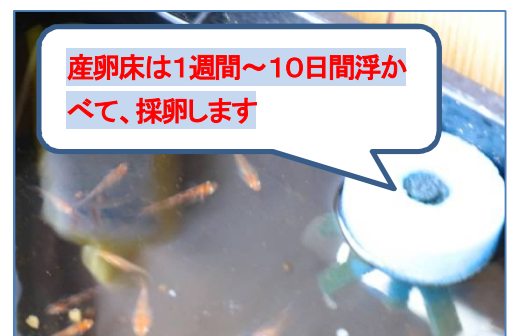
## 2) 産卵と卵の産み付け

夜が明けて明るくなる**早朝に交尾⇒産卵**します。  
体が小さいメスは、10個程度の産卵から始まり、体が大きくなりお産に慣れてくると、毎日20個～30個産卵します。  
上の写真のように、メスが卵を抱えたまま泳ぎ、産卵床に卵を産み付けるまでの時間はそれぞれ違います。  
産卵してまもなく産卵床に産み付けるメスもいれば、大事に卵を抱えたまま、なかなか産み付けられないメスもありますが、夕方までには卵を産卵床に産み付けます。  
右の写真が産卵床に産み付けた様子です。



## 3) 産卵床を親メダカの水槽に入れておく期間(卵が孵化するまでの時間)

**水温×日数の合計が「250度」**になったときに、稚魚が生まれます。  
例えば水温が25度の場合、**25度×10日**で250度になるので、産卵から孵化までは10日間です。水温が20度の場合には、もう少し時間が掛かり、30度の場合には、10日間よりも短くなります。  
つまり、25度の水温であれば、ギリギリ9日間まで産卵床を親の水槽に浮かべて卵を採ることができます。  
水温と日数を計算して、そろそろ生まれる時が近づいたら、稚魚が親に食べられないよう、親のいない容器に産卵床を移動させましょう。  
数日後、卵が孵化をして、稚魚が生まれてきます。感動の瞬間です☆



## 4) 稚魚の育て方

生まれたての稚魚は、5ミリ程度の大きさなので、慣れるまでは見つけるのが難しいです。生まれた日とその翌日は、餌は食べません。稚魚には、稚魚用の粉の餌を与えましょう。「がばいめだか」が特にオススメです。くれぐれも、与え過ぎには注意してください。1.5cmくらいになったら、親と同居もできます。

## 5) その他注意事項

適度に稚魚を増やしたら、子を探るのは中止してください。自然環境を壊しますので、**増えすぎたからといって、川に流すことは絶対にしないでください。**増えたらお友達やお子さん、お孫さんにあげたりしてください。